イ
E01

星ヶ丘ギャラリーの設計

阿部研究室

河村奈緒　出口菜々子

目的・背景

　卒業研究を行うにあたり、私たちは展示空間に興味を持った。そして、星ヶ丘駅構内に星ヶ丘ギャラリーという身近な展示空間があることを知った。しかし、私たちが初めて見た星ヶ丘ギャラリーは、写真のようにとても暗く印象が悪かった。そこで、星ヶ丘ギャラリーの設計は、もっと改善の可能性があるのではないかと考えた。

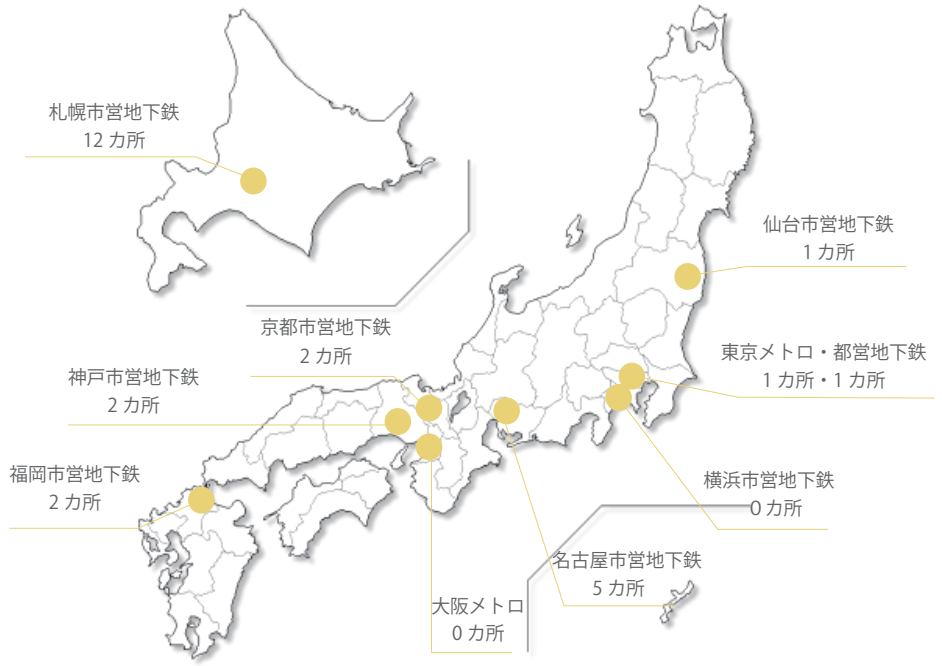
　本研究では、星ヶ丘ギャラリーを含む国内の地下鉄ギャラリーの調査を行い、展示空間はどのように利用されているのかを調べ、利用状況を分析する。また、デザインを学ぶ椙山女学園大学生活環境デザイン学科の学生に限定し、アンケート調査を行う。そして、星ヶ丘ギャラリーの現状の印象や展示空間に求められていることを分析する。これらの分析結果をもとに、多くの人が利用したいと思える展示空間の設計をすることを目的とする。

国内地下鉄ギャラリー

　札幌市営地下鉄、仙台市地下鉄、東京メトロ、都営地下鉄、横浜市営地下鉄、名古屋市地下鉄、大阪メトロ、京都市営地下鉄、神戸市営地下鉄、福岡市地下鉄の10か所の駅にいくつの地下鉄ギャラリーがあるのか調査を行った。

　また、札幌市営地下鉄では募集期間中に申し込む必要があり、1年に1人１回しか展示が行えないのに対し、名古屋市営地下鉄では、空枠があれば募集期間以外でも申し込むことができることが分かった。以上のことから、利用しやすいものといえる。

　インターネット調査の結果、札幌市に次いで、名古屋市は地下鉄内のギャラリーが多いといえる。また、全国的に見ると地下鉄内ギャラリーの数は少ないため、珍しい展示スペースである。



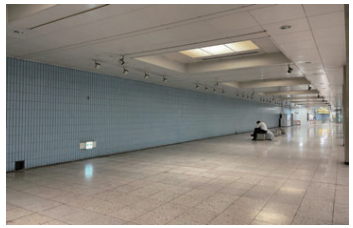
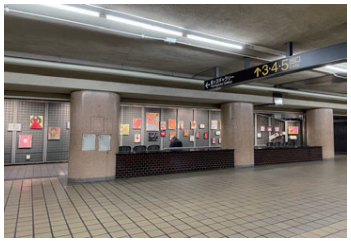
地下鉄開業 50 周年を記念し、全ての地下鉄駅ギャラリーを無料化地域の「ふれあいと発表の場」として利用。

(1) 写真、絵画、書道、手芸、工芸、彫刻、盆栽、生花、陶芸等の作品展示(2) 切手、模型、切符等各種収集品の展示
(3) 文化財、埋蔵発掘品、地域郷土文化物等の展示　(4) 前各号に準ずるもので、交通局が認めたもの
※国、地方公共団体その他の公共団体又は公共的団体の事務遂行上、使用させるため必要と認めたもの
ただし、上記内容に該当する場合であっても、次のいずれかに該当するときは、ギャラリーのご利用はできない。
(1) 法令に違反する場合　(2) 営利を目的とする場合
(3) 政治的、宗教的活動である場合　(4) 公序良俗に反する場合
(5) ギャラリーの設置目的に反する場合　(6) 前各号に定めるほかギャラリーの管理運営に支障がある場合

実施日：2021 年 6 月 1 日
目　的：星ヶ丘ギャラリーと他のギャラリーの比較
場　所：原駅、名古屋港駅、黒川駅、本陣駅、星ヶ丘駅
方　法：各ギャラリーを直接訪問

「明るさ」、「雰囲気」、「場所」、「ギャラリーの入りやすさ」、「展示の観やすさ」の 5 項目を「展示作品 があるとき」「展示作品がないとき」に分け調査を行う。

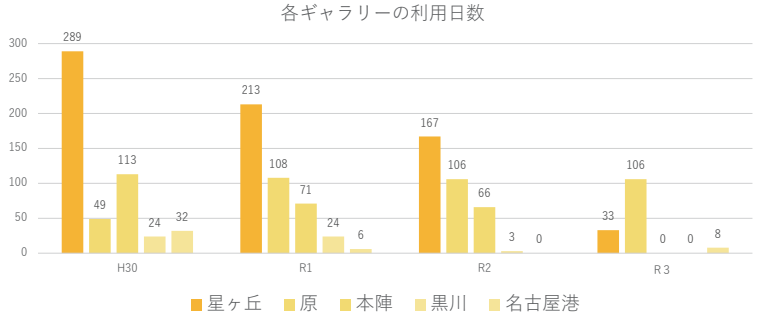
明るさ	展示作品があるとき、ないときの差。あるときは、作品を観る際に明るいか。
雰囲気	全体の感じの良さ。近づきやすいか。
場所	改札や出入口など動線から見たギャラリースペースの位置。
ギャラリーへの入りやすさ	扉や壁の有無によるギャラリーへの入りやすさ。
展示の観やすさ	展示されている作品が観やすいかどうか。

	原ギャラリー	名古屋港ギャラリー	黒川ギャラリー	本陣ギャラリー	星ヶ丘ギャラリー
					
明るさ	とても暗く、不穏さがある。 照明が使用され明るい。	改札側と比べると暗い。 照明が使用され明るい。	中が薄っすら見えるが暗い。 照明が使用され明るい。	透明のガラス張りのため奥まで見え、明るい。 照明が使用され明るい。	改札側と比べると暗い。 照明が使用され明るい。
雰囲気	ギャラリースペースだと感じにくく近寄りがたい。 雰囲気は良い。	ギャラリースペースだと感じにくい。 雰囲気は良い。	ギャラリースペースだと感じにくく近寄りがたい。 雰囲気は良い。	ギャラリースペースだと感じにくく近よりがたい。 雰囲気は良い。	ギャラリースペースだと感じにくい。 雰囲気は良い。
場所	改札から遠く 2 番出入口の利用者にしか目につかない。	改札から目に入る位置にはあるが、水族館など利用頻度の高い出入口からは遠く、目に留まりにくい。	改札と改札の間にあり、出入口の付近でもない。通る人も少ないため目に付きにくい。	改札からは近く、出入り口にも近いため目につきやすい。	東改札口側から 3，5 番出口を利用する人にしか目に入らないため、目に留まりにくい。
ギャラリーへの入りやすさ	扉があるため独立感が増し、展示内容などを知らないと入りづらい。	扉や仕切られる壁もないため、通りすがりの人や椅子に座る人にも観てもらいやすい。	扉があるため独立感が増し、展示内容などを知らないと入りづらい。	扉があるため独立感が増し、展示内容などを知らないと入りづらい。。	通りすがりに目に付きやすく、椅子に座ることもできるため、ギャラリーには入りやすい。
展示の観やすさ	作品が台の上に置かれているため観やすい。	1 番広く、壁一面に展示作品を飾る事ができ、広々とした空間であるためとても観やすい。	壁一面に展示作品を飾ることができ、広々とした空間であるためとても観やすい。	扉付きのギャラリーの中では、広いため見やすい。	壁面に展示作品を飾る事ができ、開放的なため観やすい。

03-2

利用日数

実施日：２０２１年６月１日
目　的：星ヶ丘ギャラリーと他のギャラリーの比較
方　法：名古屋市交通局にコロナ禍前と現在までの利用状況を問い合わせる
（６月１０日）



以上から、他の交通局ギャラリーと比較し、利用日数は星ヶ丘ギャラリーが１番多いことが分かった。また、コロナ禍になり、全ての交通局ギャラリーにおいて利用状況が減少している。

星ヶ丘ギャラリーの特徴

良い点

- フェンスを使用した壁面であるため、掛けて飾る作品が飾りやすく観やすい。
- 扉や壁で独立感がなく、柱や腰壁で囲まれている半独立空間のためギャラリースペースへ気軽に入りやすい。
- 作品が飾られているときの明るさがよい。
- 椅子があるため座って作品を観ることができる。
- 待ち合わせ場所としても利用しやすい。
- 駅中で利用しやすい。
- 年間の利用日数が２番目に多い原駅よりも約２倍多い。

悪い点

- 作品が飾られていないとギャラリースペースだと分からない。
- 東改札口側から３，５番出口を利用する人にしか目に入らないため、駅を利用する人でも知らない人が多い。
- 壁に飾ることが出来ない作品を、置く台がないため不便。
- 設備がむき出しになっているため駅感が強い。
- 作品が飾られていないと、暗く近寄りがたい。
- 壁や床がグレーや黒色を使用しているため全体的に暗い。

設計趣旨

現地観察調査から1～3を、アンケート調査から4～７を、設計趣旨として以下の通りに決定した。

1. 作品を棚に置くことや空間が広いことで展示が観やすくなる。よって、どのようなジャンルの作品であっても展示ができるよう、棚を設置する。
2. 空間が暗いと印象が悪いことが分かった。よって、展示がないときでも明るい空間にする。
3. 扉がある閉鎖的なギャラリーに比べ、扉が無い開放的なギャラリーの方が入りやすく、通りすがりの人にも見てもらいやすいことが分かった。よって、新たに扉や柱は設置せず、通りすがりの人にも見てもらいやすい空間にする。
4. 壁は白、床は茶色の空間が最もシンプルで、落ち着いた雰囲気があり、作品が映え、展示空間に適していることが分かった。よって、壁は白色、床は茶色に決定した。
5. 展示空間に求める雰囲気は「シンプル」「個性的」であった。前者は白壁に床が茶色の点で、後者はフェンスを使用する点で表現する。
6. 星ヶ丘ギャラリーの「展示の観やすさ」と「ギャラリーへの入りやすさ」は「やや良い」が、「明るさ」と「雰囲気」は「やや悪い」という意見が多かった。そこで、展示の観やすさとギャラリーへの入りやすさは維持し、明るさと雰囲気を改善した設計をする。
7. 壁面、床、天井、照明、雰囲気の全ての項目で「やや悪い」という意見がもっとも多かった。よって、現状のグレーの壁や床の色味を変え、照明を増やすことで、全ての項目を改善する。

コンセプト

”ふれあいと発表の場”であるギャラリーを多くの人が展示したいと思える空間

どんなジャンルの作品の展示会をするにも展示がしやすい空間

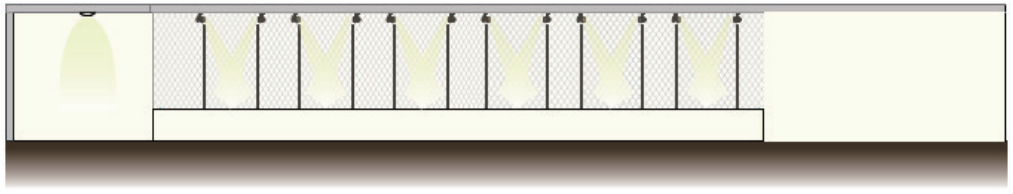
作品を展示する人のため

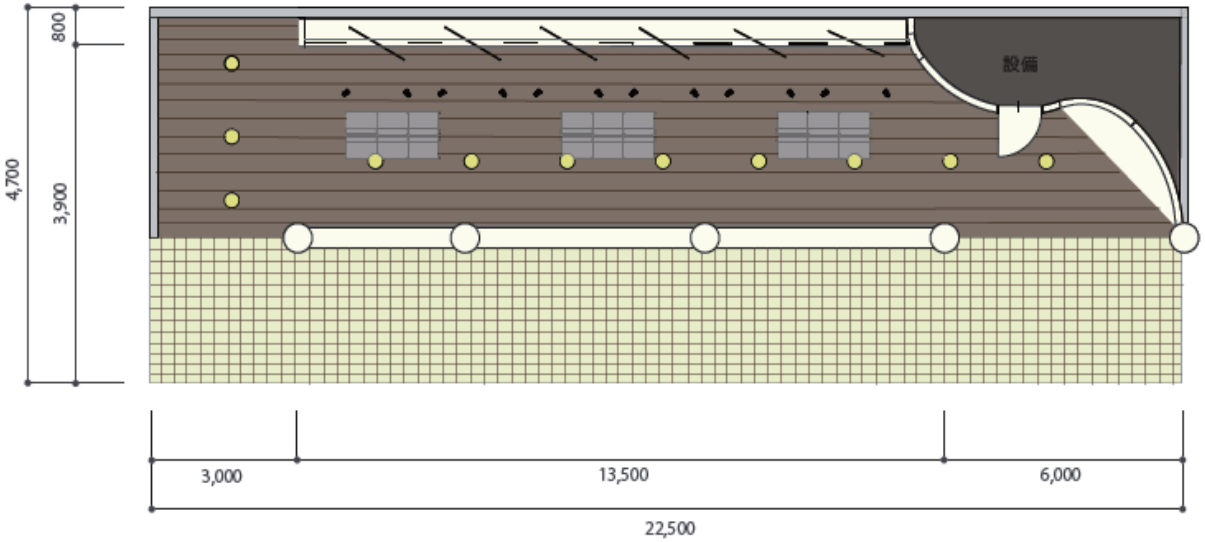
展示作品を観る人のため

通りすがりの人にも入りやすく沢山の作品を観ることができる空間

待ち合わせや休憩場所としても気軽に利用ができる空間

図面





	仕上表		展示壁面	アルミフェンス　ブラック	
床	ローズウッド無垢フローリング		棚	透明ガラス	
壁	シリコン塗装　オフホワイト		椅子	ウレタンフォームビニールレザー張り ダークグレー	
天井	シリコン塗装　オフホワイト		照明	シューティングLED　スポットライト ダウンライト	

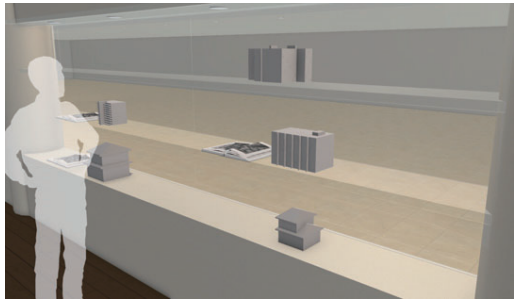
改札側から見た入口

入口側から見た壁面展示の様子

3〜5番出口から見た出入口

ガラス棚に展示してある様子

パース



今まで腰壁のみであったが、ガラスを使用した棚にすることで、通りすがりの人にも目に留まりやすい。

壁に掛けて展示する作品が今まで通り飾りやすくするため、格子状のフェンスを使用した。フェンスが左右に動くため、作品の展示の方法の幅が広がる。

アパレル作品を展示しているときの様子。高さのある作品も展示がしやすい。

星ヶ丘ギャラリー以外の名古屋市交通局ギャラリーが、何の展示を開催中なのを知ることができる。展示会のパンフレットなどを置くことができる

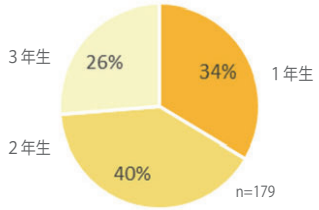
アンケート調査

質問内容

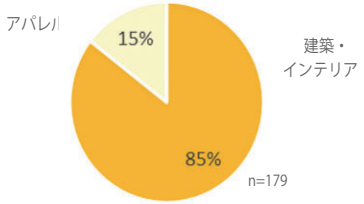
Q1	学年	Q8	星ヶ丘ギャラリーで展示したいと思うか
Q2	専攻分野	Q9	なぜそう思うか（記述）
Q3	星ヶ丘ギャラリーを知っていたか	Q10	星ヶ丘ギャラリーかレンタルギャラリー
Q4	展示空間に求める雰囲気（複数回答可）	Q11	最も作品を展示したいと思う空間（A～F）
Q5	展示空間で重視する点	Q12	最も作品を展示したいと思う空間（G～L）
Q6	星ヶ丘ギャラリーの項目別印象	Q13	作品を展示したいと思う空間（複数回答可）
Q7	星ヶ丘ギャラリーの分野別印象	Q14	その理由（記述）

Q4からは、『「自分の作品（絵画や写真、陶芸など）の展示会をする」と想像しながら』アンケート調査を実施した。

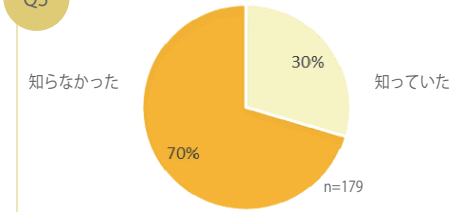
Q1



Q2

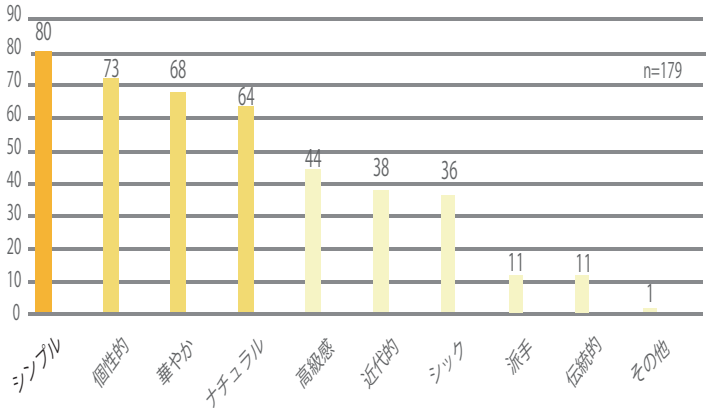


Q3



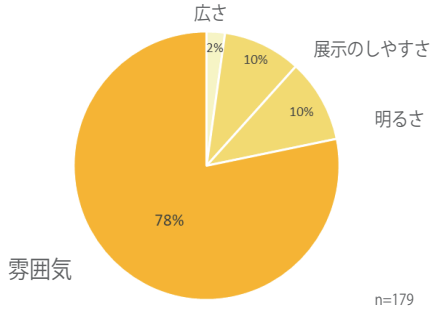
星ヶ丘ギャラリーを知らない人が全体の70%を占めており、多くの椙山生が利用する駅にも関わらず、知名度がとても低く、もったいない空間であると言える。

Q4

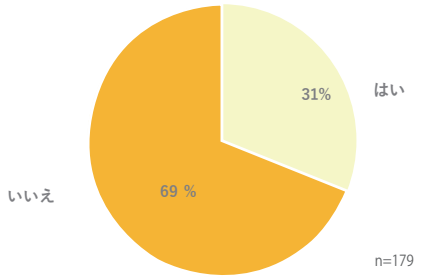


どんな雰囲気の展示空間を利用したいかを調査する質問では、「シンプル」の80票が最も多く、次いで「個性的」の73票、「華やか」68票と「ナチュラル」64票が多かった。

Q5



Q8



実際に星ヶ丘ギャラリーで展示をしたいと思うか、を問う質問では、69%の人がしたいとは思わないと回答をした。

Q9

展示をしたいと思わない人の意見が以下の通りである。

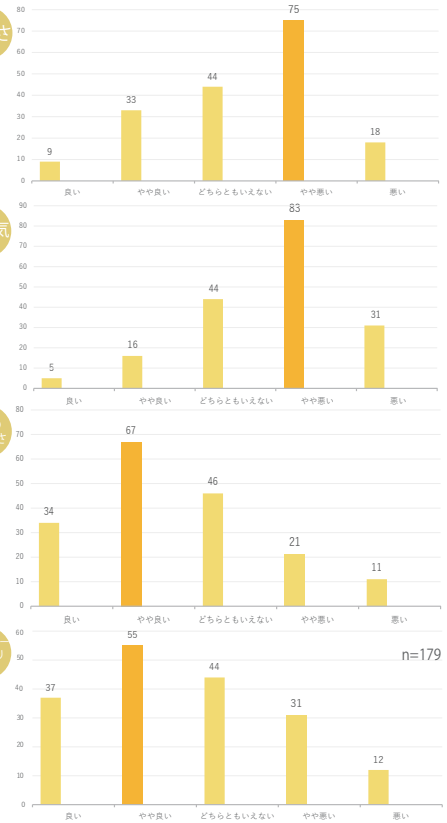
- 殺風景で展示をする空間には見えない
- 地下で冷たい感じがしていて、見る人が少なそう
- シャッター街の落書きのような雰囲気に感じる
- 集客があまり見込めない
- 作品に目が行くような誘導が無いと目を引かないと思う
- 地味で灰色の壁や天井が冷たい感じがする　etc

展示をしたいと思う人の意見が以下の通りである。

- 不特定多数の人に展示品を観てもらえそうだと思った
- 誰でも見ることが出来るギャラリーがあるのは珍しい
- 見た目は良くないが、手軽さがある
- ギャラリーの椅子で休憩することがあり、多くの人に見てもらえると思う
- 改善したら見てもらえる機会が多くなると思う
- 誰もが出入りしやすい場所にあるのは良いと思った　etc

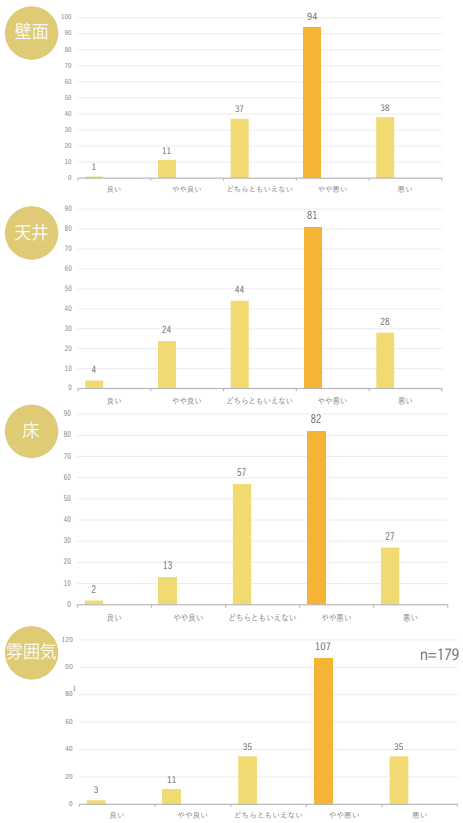
以上の意見から、展示をしたいと思わない人は現状の星ヶ丘ギャラリーに魅力を感じることができないことが分かる。展示をしたいと思う人は星ヶ丘駅というのをプラスに捉え、不特定多数の人に見てもらえると感じる人が多くいた。しかし、改善が必要であると感じる人も多くいた。

Q6



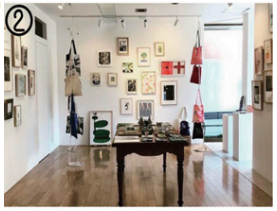
画像は「星ヶ丘ギャラリー」に作品が展示されている時の様子です。4項目を５段階で評価して貰いました。明るさ・雰囲気が「やや悪い」というネガティブな印象を感じる人が多くいることが、分かる。

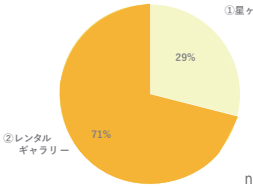
Q7



画像は作品が展示されていない時の様子です。４項目を５段階で評価して貰いました。全ての項目において「やや悪い」と感じる人が多く、ギャラリー全体の改善が必要であることが明らかとなった。

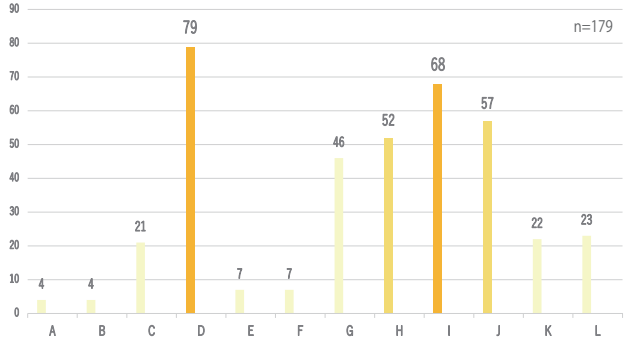
Q10





無料の星ヶ丘ギャラリーか、有料のレンタルギャラリーをどちらを利用したいかを問う質問では、約７０%の人がお金を払ってでも魅力的なレンタルギャラリーを利用したいと感じていることが分かった。

Q13



Q14

A～Lの中で最も票を多く集めたのは壁が白色、床が茶色のDでした。

Dを選んで人の意見は以下の通りです。

- コントラストがはっきりしていて、落ち着いた雰囲気
- 他の色の空間だと、作品の邪魔をしてしまうと感じた
- 白と茶色のバランスが良くきれい
- 背景が白だと作品が映えると感じた
- シンプルで落ち着いている
- パッと見た感じの配色が良い
- 作品に注目できると感じた

etc

アンケート結果から展示空間に求める、雰囲気にDの空間が好まれることが明らかになった。